

2018 年度 若者×ツナグバ 事業報告

2019 年 5 月

特定非営利活動法人 ほしはら山のがっこう
特定非営利活動法人 三次おやこ劇場
府中町地域活動青年団体 志楽蝶
公益財団法人 マツダ財団

2018 年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名: NPO 法人 ほしはら山のがっこう

報告者: 浦田 愛

活動の内容(日時、場所、目的、内容、参加人数等 活動項目ごとに番号を振って箇条書きをお願いします。)

1. 「若者×ツナグバ」三次会議

日時 6 月～3 月 2 時間×6 回

場所 ほしはら山のがっこう

目的 三次市の若者がつながる仕組みづくりについて考える

内容 企画会議・アンケートづくり～アンケート集計

参加人数 延べ 23 名

2. 三次市行政とのビジョン共有化に向けて

日時 11 月 19 日 11 時～12 時

場所 三次市教育長室

目的 「青少年・若者の居場所づくり」について意見・要望

内容 青少年体験活動、若者の居場所づくり、不登校の居場所づくりに関わる 3 団体が

三次市教育委員長をはじめ生涯学習に関わる文化と学びの課と意見交換を行い、

今後の三次市の青少年・若者の居場所についてビジョンを共有するきっかけとする。

「子どもの未来応援宣言」発行年でもあり、すべての子どもが＜可能性・希望・チャレンジ＞に

つながることが出来るよう、行政・市民・地域が手を取りあい、役割分担していく方法を探る。

参加人数 当団体より 1 名、みよし親子劇場より 2 名、ひろしま森のおもちゃ協会より 1 名

日時 12 月 13 日 (木) 16 時半～17 時半

場所 市長室

目的「青少年・若者の居場所づくりについて意見・要望

内容 主に中高生～20 代の若者世代の居場所づくりについて、「子どもの未来応援宣言」に添い、

すべての子どもが＜可能性・希望・チャレンジ＞につながる事が出来るよう、取り組んでいく方向性

について、行政・市民・地域が手を取りあい、役割分担していく方法を探る。

参加人数 当団体より 1 名 (ほか、議員 1 名)

3. 三次市「若者×ツナグバ」イベント開催

日時 2 月 11 日 (祝) 12 時半～17 時

「中高生～20 代向け カフェイベント」

場所 三次市内ショッピングセンター内 (みよし CC プラザ)

目的 ①主に三次市の 10 代～20 代の若者が自らの可能性を見つけ、希望を持ち、チャレンジしたいことを発見し、挑戦していくことができるよう、自主的に集まり学べる場を提供する。

②当事者である10代～20代の若者自身が「居場所ってなんだろう」というテーマにふれ、自分たちで考える機会を提供するため、NPO 法人カタリバより講師を招き、講演を行う。また地元の若者代表者とのトークセッションを通して、当事者感覚で考える会とする。

③市民が、若者世代の居場所づくりや、自主的な活動・主体的な学びの場づくりによる次世代育成に関心を持つ機会をつくる。

内容 ①若者を対象とした場＝ツナグバを提供する

(フリースペースカフェ・ボードゲーム・若者対象の市内情報や地域ボランティア活動等の紹介)

②若者を対象としたボードゲームイベント開催・トークイベント参加

③トークイベントへのギャラリー参加・アンケート調査

※後援:三次市・三次市教育委員会・青少年育成三次市民会議 協力:三次おやこ劇場

参加人数 参加者 36 名(中高生～若者世代 24 名 大人 12 名) スタッフ 8 名



中高生～
20代向けカフェイベント



中高生～20代向け
カフェイベント

@三次CCプラザ
セントラルコート(1階)

2/11祝
12:30-17:00

12:30-17:00
フリースペースCAFE

12:30-17:00
ボードゲーム体験

14:30-16:00
トークイベント開催!「居場所って、なんなん?」

おしゃべりしたり、ボードゲームしたり、
勉強してもいい、フリースペースを
1日だけオースン!

休演後や休日を演じる、学校や職場、家じゃない
「サードスペース」を体験してみよう。
ひとりでも、きてもいい。
予約は不要です。無料です。

12:30-17:00
フリースペースCAFE

12:30-17:00
ボードゲーム体験

14:30-16:00
トークイベント開催!「居場所って、なんなん?」

講師 田中さん
Pomisaさん

b-lab

主催: NPO法人はららのごっこ「居場所ツナグバ」 後: 2024.03.2025 hoshitaru@npo.net
助成: 公益財団法人マダ財団 協力: NPO法人三次おやこ劇場 後援: 三次市・三次市教育委員会・青少年育成三次市民会議



良かった点および課題、今後の方向性

良かった点

三次市内の若者世代がつながる仕組みづくりについて、市内の青少年活動に関わる団体と連携しながら研究し、提案を市政リーダーにつないだ。また、イベント型で居場所づくりや啓発活動を行うことができた。

三次市内青少年関連団体：三次市青少年育成町民会議・NPO 法人三次おやこ劇場・一般社団法人ひろしま森のおもちゃ協会・NPO 法人ほしはら山のがっこう

提案

こんな仕組みがあったら

ユースセンター 市の中心部の施設／ユース専門スタッフがいる／



青少年・若者活動の環境文化の育ち／情報のハブ

青少年活動団体 **地域活動団体** 若者の自主活動やボランティア活動、地域活動への参加が活性化

- ・三次市には、広島市や府中町のような、若者や市民活動団体の居場所がない。

市内には、乳幼児連れの親子の居場所や相談機関は多くある。

しかし、若者世代が自主的に利用できる居場所がない。中高生～若者世代に居場所を聞き取ると、学校・塾・ショッピングセンター・ファミレス・ファーストフード店・図書館など。若者と地域社会がつながる仕組みがあれば、未来の担い手である若者の人づくり・地域づくりに貢献できる。専門スタッフが常駐するユースセンターのような機関の設置と、そこをハブにしたネットワークによる、若者世代の様々な悩みに対する支援・若者活動の活性化を促したい。

- ・三次市長・教育長・議員に、三次市の若者の居場所づくりの必要性について提案をした。
- ・三次市内中心部で中高生～若者対象の居場所づくりを、まずはイベント型で行うことによって、当事者を含める市民が「居場所」について考えるきっかけづくりを行うことが出来た。

課題

- ・三次市に、中高生～若者による自主活動(公的施設を自主的に利用する文化を含む)が圧倒的に少ないのではないかと(今後関心や参加者・利用者をどのように集め、風土をつくっていくか)。
- ・若者が自主的に様々な価値観や生き方・人・地域と出会え、チャレンジできるよう支える社会づくりが進んでいないことは、わたしたち大人の問題。ふるさとを未来へつないでいく人材育成の必要性について、市民全体にビジョンが見えていない。
- ・三次市内の若者を対象とする施設(できるだけ多くの若者が自分自身でアクセスしやすい拠点)、継続的な資金と担当者がない。

今後の方向性・意見(自団体の活動あるいは若ツナ全体の活動について)

【ほしはら山のがっこう】

- ・当団体の目的である「ふるさとを未来につなぐ人材育成」として、10代から若者世代が自主的に、自然・社会・人との直接体験ができる仕組み(理念の共有・拠点づくり・若者支援ネットワークづくり)を、他団体や行政との連携の中ですすめる。当面、ハブとして動き、仕組みが動き始めれば、野外教育や農村地域づくり活動を通じた人づくりセクションとしての役割を担う。

【若ツナ全体】

- ・若者の居場所の必要性について、実績や研究活動に基づいて社会に説明していく
- ・若者の居場所の利用者は社会人になる前後を想定しているため、経済的な負担が出来る限り少なく利用できるように支援する
- ・居場所づくりの担い手研修

【若者×ツナグバ】

- ・様々な悩みや困難を抱えた若者が、雑談の延長として相談できる大人や仲間、受けとめ支えてくれる地域社会と出会える場を提供する。
- ・直接体験としてコミュニケーションや社会参加などの経験を積み重ねることや、学習支援などができる場・機会を提供することで、地域社会を支えていく人材育成をする。
- ・若者の自主的な活動が生まれる環境づくり～自主活動の支援を行うことで、リーダーを育成する。

収支結果報告

(金額単位:千円)

収入の部

マツダ財団支援金	500
自主財源	10
合計	510

支出の部

支出についてはマツダ財団負担金からの充当額を右端に記載ください。

	費用項目	内訳	金額	負担金充当
行事・催事費用	講師謝礼 (含交通費)	(3)トークイベント講師1謝金(NPO 法人カタリバ部門責任者謝金・含交通費) (3)トークイベント講師2謝金	100 20	100 20
	アルバイト代 (含交通費)	(3)イベントスタッフ 5,000×8 名 (1, 2, 3)事務局アルバイト 6,800×10	40 68	40 68
	印刷・設営費 (ポスター、チラシ、看板等)	(3)イベントチラシ・アンケート・資料印刷費	55	55
	レンタル・リース料 (会場、備品、バス等)	(3)会場費 (3)レンタル(ボードゲーム)	0 10	10
	その他	(3)消耗品費 (3)委託費 YouTube 配信代行	38 30	38 30
	小計			
	備品費	(3)備品費	75	65
	出版費用 (会議費、通信費等)	(1)会議日当 3,000×25	75	75
	その他経費			
	合計		510	500

内容欄に活動項目の番号を振って関連づけてください。

2018 年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名 : NPO 法人三次おやこ劇場

報告者 : 佐々木洋子

活動の内容(日時、場所、目的、内容、参加人数等 活動項目ごとに番号を振って箇条書きをお願いします。)

- ① 6/4(月)読み聞かせ、スイーツづくり 石窯づくり DASAIYA 10 人
- ② 6/8(金)「ピアノカの魔術師」設営撤収スタッフ みよしまちづくりセンター 10 人
- ③ 6/9(水)読み聞かせ、スイーツづくり 石窯づくり DASAIYA 11 人
- ④ 6/11(月)洋裁教室・手仕事 石窯づくり DASAIYA 10 人
- ⑤ 6/15(金)読み聞かせ、スイーツづくり 石窯づくり DASAIYA 12 人
- ⑥ 6/17(日) 哲学カフェ みよしまちづくりセンター 7 人
- ⑦ 6/18(月)洋裁教室・手仕事 石窯づくり DASAIYA 10 人
- ⑧ 6/22(金)読み聞かせ、スイーツづくり 石窯づくり DASAIYA 12 人
- ⑨ 6/24(日)みんなでつくろうDIY! 石窯づくり DASAIYA 12 人
- ⑩ 6/25(月)洋裁教室・手仕事 石窯づくり DASAIYA 10 人
- ⑪ 6/29(金)読み聞かせ、スイーツづくり 石窯づくり DASAIYA 12 人
- ⑫ 7/2(月)～5(木)農業体験 辰巳ぶどう園 3 人
- ⑬ 7/23(月)読み聞かせ、みずあそび 石窯づくり DASAIYA 10 人
- ⑭ 7/24(火) 読み聞かせ、みずあそび 石窯づくり DASAIYA 11 人
- ⑮ 7/31(火) 読み聞かせ、みずあそび 石窯づくり DASAIYA 11 人
- ⑯ 8/4～5(土～日) キャンプ 庄原市口和町ほたるみ公園 56 人参加 10 人
- ⑰ 8/27(月) みんなでつくろうDIY! 石窯づくり DASAIYA 10 人
- ⑱ 9/14(金) みんなでつくろうDIY! 石窯づくり DASAIYA 10 人
- ⑲ 9/15(土) みんなでつくろうDIY! 石窯づくり DASAIYA 11 人
- ⑳ 9/23～24(日・月) おもちゃフェスタ スタッフ ほしはら山の楽校 13 人



21	10/28(日)	忍者修行 スタッフ	尾関山公園	114 人参加	15 人
22	10/29(月)	みんなでつくろうDIY！石窯づくり	DASAIYA		11 人
23	11/ 5(月)	みんなでつくろうDIY！石窯づくり	DASAIYA		10 人
24	11/6(火)	みんなでつくろうDIY！石窯づくり	DASAIYA		16 人
25	11/7(水)	みんなでつくろうDIY！石窯づくり	DASAIYA		10 人
26	11/11(日)	哲学カフェ みよしまちづくりセンター		6 人	
28	石窯 2019. 1/26 完成	DASAIYA	15 人	(のべ 268 人)	

良かった点および課題、今後の方向性

良かった点

移転で出遅れたが、春になると、ごく自然なかたちで 3 人の若者を中心に 10 人の若者(小学生 1 人、中学生 1 人、高校生 1 人、15 才以上 7 人)がDASAIYAで過ごし、作業を楽しんだ。

石窯、カフェづくりのための作業、レンガ・木材切断、清掃、パソコン、デザイン、企画など、ボランティアで出入りし、作業をうとうことなくそれぞれの役割を楽しんだ。

子どもたちと遊んだり、様々な大人の会話をおもしろがり、若者たちの心が和らぐ様子がみえた。

徐々に自分のすすむ道を模索しはじめ、悩んでいる自分を認め、自分のやりたいこと、得意な事をみつけることができた一年間だった。登校拒否とちがひ、数値が把握できない高校生以上大人のニートひきこもり。この 2 年間の事業の中で、身近なところに多数いることがわかった。一様に、表現するのが苦手な心優しい生真面目な若者たちである。地域へのよびかけをとおして、ボランティア活動に参加し、力を発揮しはじめる若者たち。子どもと動物に大変優しく、優しすぎて現代社会の中でしんどい思いをしている様子だった。

様々な大人の様々な会話には、生きてゆくためのユニークな話が多く、眼からウロコ、とても楽になったという。

異年齢の中だからこそその生きる力をたくわえたといえる。若者の心を支える環境をつくるのが私たちの使命だと考えている。

3 人の若者を中心に

小さな子どもたちとママたちとの自然なふれあいにより、3 人ともよく笑うようになり、たくましく変化した。

子どもたちの本棚から絵本を取り出し「この詩を声に出して読みたい」と、恥ずかしがりだった義明くんがお母さんと子どもたちに『たいせつなあなたに』という絵本を読み聞かせしてくれた。

日常的につながる中でこそ、自分自身の変化に気づくことが出来、彼ら自身が自分を見つけ出すことができた。登校刺激をされることのない環境で、ゆったりとやさしい時間を過ごし、それぞれが自分の進む方向をみつけた。



その後

◆中 3 の H くんは、高校受験勉強のため、通学をはじめ、この春高校に進学した。将来は保育士になりたいという夢をもち、おやこ劇場のボランティアを積極的に手伝いにやってきて子どもたちとふれあっている。

◆中学校卒業した、A くんは、農業青年になり、祖父と父親の経営する農業を手伝っている。

「家に居続けたけど、DASAIYA のボランティアがあることでピザ窯など、自分のやる事があるから進んで家から出るようになりました。ふだんあんまり他の方とは話す機会が無いけど、DASAIYA で色々な方と話す機会ができた事が自分の変化です！」

◆国立大に入学して 3 日で帰ってきた Y くんは、先天的肢体不自由な足が悪化していたため、病院でリハビリ。病院で友だちが出来、東広島の大学で福祉、医療関係に進路を変更し受験し合格。アルバイト、DASAIYA のボランティアに忙しくしている。

「青春18切符」で旅に出掛けるなど、生まれてはじめて積極的に青春を楽しんでいてビックリしている。(お母さん談)

「DASAIYA に関わらせてもらったことで、舞台公演の裏方(ガラガラドン、ピアノカの魔術師など)や、ピザ釜づくりなど、なかなかできない貴重な経験をすることができました。DASAIYA に出会うまで NPO に全く縁のなかったじぶんにとっては、DASAIYA で出会う人や DASAIYA の活動はとても新鮮なものだったし、自分も頑張ろう、という気持ちの原動力になりました。簡単ではなかったけれど、とてもやりがいを感じたし、楽しかったです」

課題

自分たちの活動が、どのような意義をもつのか、大人も含め、他者からの客観的評価される機会が必要だと感じている。若者支援事業のシンポジウムなどが必要だと思っている。

今後の方向性・意見(自団体の活動あるいは若ツナ全体の活動について)

「みんなでつくろう！DIY！」(DASAIYA)

自然な形での出会いから、3 年目は、若者自身がカフェをつくり運営し、自信を深めてもらいたいと思っている。

若者自身によるカフェ運営で、「誰もが楽な居場所」をみんなでつくりあげたい。

また、おやこ劇場の一泊キャンプにも若者の力を発揮できるよう企画している。

収支結果報告

(金額単位:千円)

収入の部

マツダ財団支援金	500
自己負担	7
合計	507

支出の部

支出についてはマツダ財団負担金からの充当額を右端に記載ください。

	費用項目	内訳	金額	負担金充当
行事・催事費用	アルバイト代 (含交通費)	指導員謝礼(石窯 菅野正博×6 回 洋裁 郷原 玲子×3 回 電気工事 永谷章彦×4回) ①③④⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑰⑱22、28 10000×1=130,0300 ボランティア交通費(中村学ほか 12 人) ① ③④⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑰⑱⑲ ⑳21、22,23, 24,25、27 500×12 人×23 =138,000	268	268
	印刷・設営費 (ポスター、チラシ、看板等)	印刷費 6900 A4 両面カラー @30×1000	30	30
	レンタル・リース料 (会場、備品、バス等)	印刷機リース 17,496(年) 借料 2,936(軽トラ 2 回借料)	20	20
	その他	書籍 1106 書籍 1666	3	3
	小計		321	321
備品費		石窯作成費 ① ③④⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑰⑱22、92,285 ② ④⑤⑦電気工事費 17,280	110	110
出版費用 (会議費、通信費等)		通信費	18	18
その他経費		教材費(調理×5、洋裁×3)①③④⑤⑦⑧ ⑪12223 消耗品費 インク代ほか 46,083	58	51
合計			507	500

内容欄に活動項目の番号を振って関連づけてください。

2018 年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名 : 府中町地域活動青年団体 志楽蝶

報告者 : 石田 一真

活動の内容(日時、場所、目的、内容、参加人数等 活動項目ごとに番号を振って箇条書きをお願いします。)

■府中町で行われる行事への参加、または主催

①府中町災害ボランティアへの参加 (2018/7/21)

・府中町 ・復興支援

→ 7月に広島県を襲った豪雨災害。府中町の被害も甚大だった。そこで行われた府中町復興ボランティアに5名で参加。復興支援を行った。他に我々ができることとして、広報媒体(SNS)を駆使し被害状況や注意喚起を行った。これにはツバキマンの公式 twitter やブログ(後述)を使用。主に使用したツバキマンの公式 twitter では注意喚起をおこなったり、状況解説をまとめた記事には約 1 万 8 千ものアクセスがあった。

②「府中音楽フェスティバル」への参加 (2018/8/20)

・府中南公民館 ・町内行事の支援

→ 毎年行われている音楽イベントの運営スタッフとして参加。志楽蝶の参加は今回で4度目となる。メンバーの6名が参加し、会場設営や音響照明スタッフや、受付員等の業務を行った。過去に志楽蝶が製作したポスターが今年のものにも用いられている。



③「府中町立府中中学校」での講義 (2018/10/9)

・府中町立府中中学校 ・生徒への講義

→ 府中町で活動する団体を集め、府中町立府中中学校の生徒(3年生)が考える「府中町活性化の催し」のヒントを探る授業での講義を行った。主に志楽蝶の活動内容や団体設立の経緯、団体理念などの内容を説明。設立者であり、志楽蝶ラジオでパーソナリティを務める石田と大中の2人で参加し、持ち前のトークで生徒と一緒に町内活性とは何かを考えた。また、アイディアの生み出し方や魅せ方などの講義も行った。



④「鹿籠祭り」への参加 (2018/10/20)

・鹿籠神社 ・音響、照明

→ 毎年行われる秋祭り、鹿籠祭りに今年も志楽蝶として参加した。今年の依頼は音響・照明で、ステージ発表イベントでのオペレーションを行った。

⑤「ヒューマンフェスタ」への参加 (2018/12/2)

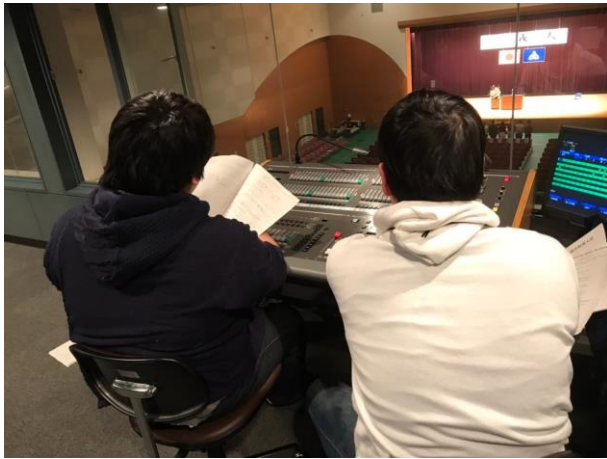
・くすのきプラザ ・町内行事の支援

→ 毎年人権をテーマに行われるイベントにアシストスタッフとして参加。ビデオ上映スタッフや、ちびっ子コーナーのスタッフを行った。また、志楽蝶の団体 PR ブースも設けて頂き、団体説明や一般の府中町民に向け、認知向上の為の広報活動を行った。ここではツバキマンも参加し、練り歩きや志楽蝶イメージキャラクターとしての広報活動も行った。

⑥くすのきプラザ「成人式」への参加 (2019/1/14)

・くすのきプラザ ・音響照明スタッフ

→ 毎年くすのきプラザで行われている成人式の音響・照明スタッフとして参加。こちらも参加から 5 年目となった。過去の成人式実行委員会の参加経験を生かし、技術スタッフのみならず、舞台監督としても役割を果たす。



■府中戦士ツバキマン (1)

①公式 twitter の開設

志楽蝶のイメージキャラクターとして位置付けられているツバキマンを使用した広報活動として、SNS を開設。前述のような災害時には府中町の災害状況をお伝えしたり、出演情報をよりわかりやすく一般の町民にお伝えできるようになった。



②グッズ展開 (2018/8)

ブランディング向上の為(後述)にツバキマングッズを展開。現在はツバキマンストラップがある。今後はオリジナル曲を収録した CD やぬいぐるみの製作を予定している。



③「つばき祭り」への出演 (2018/10/28)

・空城山公園 ・虐待未然防止キャラクターとして出演

→ 府中町児童福祉課が行なった虐待未然防止の PR キャラクターとして出演。府中町行政からの出演依頼は昨年度から始まり、2年連続 2 度目の依頼となった。今後も府中町からの出演依頼が増えることが期待される。

④児童センターバンビーズ「バンバンフェスタ」への参加 (2018/12/1)

・児童センターバンビーズ ・ヒーローショー出演

→ 毎年児童センターバンビーズで行われているイベント、バンバンフェスタにヒーローショーの参加を行なった。ツバキマン誕生から毎年参加させていただいている。

⑤「ヒューマンフェスタ」への参加 (2018/12/2)

・くすのきプラザ ・会場内練り歩き、広報活動

→ 前述

■若者の居場所づくり (4)

①メンバー内オリエンテーション (2018/5/3)

・広島市内 ・コミュニケーション向上

→ メンバー内での交流を深める為に計画されたイベント。ボウリング大会や温泉、宴会などを行った。居場所づくりとして、志楽蝶 BASE のような場所の意味合いが強い居場所ではなく、メンバーとの交流を深めることにもコミュニティをより強いものにすることもひとつの居場所作りと考えた。

②志楽蝶 BASE バーカウンター作り (2018/6/24)

・南区本浦町 ・居場所づくり、事務所

→ 昨年度 OPEN した志楽蝶メンバーの居場所、志楽蝶 BASE。そこにより会話が弾み、アイデアや新たな展開を語り合える場所として構想をしていた BAR カウンターが完成。DIY で完成させた愛着のあるカウンターで、構想通りに自然と会話の輪が従来のテーブルから BAR カウンターに移行し、より会話が深いものとなった。



③三期生歓迎会 (2018/11/10)

・府中町・居場所づくり

→ 志楽蝶の発展や規模拡大の為にメンバー募集をかけた。そこで新メンバーとなった2人を正式メンバーとして認定。歓迎会を行った。今後もメンバーは増える予定で、前述にある成人式オペレーションスタッフを行った際に、成人を迎えた成人式実行委員会のメンバーに声をかけ、前向きな返事をいただいた。時期を見て正式なメンバーとして迎え入れる予定だ。

④メンバー誕生会

→ 月に2回ミーティングをおこなっているうちの1回のミーティング前半に誕生会を行う試みを開始。目的としては、志楽蝶 BASE に足を運びやすくなるのではという考えと、メンバーのより深い交流の為に。これには効果がみられた。

■団体としての自主活動 (2/3)

①ブランディングの向上

昨年度でた課題から「ブランディング向上」の目的として、ブログ開設・広報活動・グッズ展開を行ってきた。前述にあるように、SNS を使った広報活動は効果的で、ツバキマンを含め志楽蝶の認知向上に貢献した。また、グッズ展開では「オリジナルのグッズがあるんだ」「本格的な団体だ」などと一般の町民に対して認知していただく為に感覚的にわかりやすく、意識しやすい広報媒体として大きな貢献を果たした。

良かった点および課題、今後の方向性

■府中町で行われる行事への参加、または主催

我々が一番掲げている「府中町に若い風を。」というスローガンの元、高齢化が進む町内イベントの運営に対し、我々なりの活力をつけることが出来たと感じている。昨年、精力的に行った町内の団体や行政からの認知度を高めることの次のステップとして、今年度は「一般の町民」への認知度を上げる事を意識した。ブランディング向上を含め、SNS 等での広報活動を行うことによって「何をしている団体かわかりにくい」という部分の払拭ができた。イベント会場では「ツバキマンだ」と認知された上での交流が多く見られ、広報活動の成果が垣間見ることができた年でもあった。しかし、この広報活動やブランディング向上は常に意識を高める必要があると実感した。志楽蝶という団体をより認知していただく為に、ブログやイメージキャラクターであるツバキマンを駆使して、今後も活動の幅を広げていく所存である。

■府中戦士ツバキマン

今年度は昨年度に比べ、メディア露出が少なかったものの、町民の身近なヒーローということで、認知され始めた。SNS の更新も要因の一つではあるが、大衆の場での練り歩きやイベントのステージ出演といったヒーローショー以外の出演の数が多かったことで、認知度が大きく上がった年となった。今後はヒーローショーでの認知度向上ではなく、町内イベントにより出演していき、ステージ発表がないイベントにも積極的に出演していき、町民への露出を増やしていきたい。

■若者の居場所づくり

志楽蝶 BASE の OPEN から1年が経過し、大きな課題が見えてきた。もちろん会議をおこなったり新しいアイデアが生まれたり、他にはなかなか類をみない居場所であり、メンバーの憩いの場となっている。しかし、現在直面している課題として、目的を失った者の来場率が減少傾向にあるということが挙げられる。OPEN したての頃は物珍しさや、個人や複数での目的を持ち、多くのメンバーが集まっていた。

しかし、志楽蝶 BASE を創るという大きな目的(目標)や参加可能なメンバーの人数が減ったことによって来場者が少なくなった。また、二期生には大学生が多く、大学内で新たな交流や居場所ができたメンバーも少なくなく、志楽蝶 BASE という居場所以外の選択肢が増えたことも一つの原因と考えられる。しかし、今自分(メンバー)の居心地がいいと感じる居場所にいる事が大事と考え、志楽蝶(乃至は志楽蝶 BASE) もその多くの選択肢のうちのひとつだと考えている。

居場所というものはいわゆる場所だけではないと考えており、コミュニティーそのものも居場所と指すことだと考え、場所に呼ぶことばかりを意識するのではなく、コミュニティーを途絶えさせることなく維持させることも大事だと考えた。例えば大学を卒業して、就職をしたメンバーが学生時代によく集っていた場所を利用できなくなったり、学生同士のコミュニティーが薄くなった時の受け口として、「帰ってくる場所」「いつでも帰ってこられる場所」という場所を設けることが、今後に生きるのではないかという想いがある。現に県外に出ているメンバーが帰省した際に、必ず志楽蝶 BASE を利用するという事例があり、志楽蝶 BASE という存在が、コミュニティーの輪を途絶えさせにくいものにしてくれている。

利用(参加)が容易なメンバーの数が減少しているのも原因の一つで、仕事が忙しくなって時間が作りにくくなっているメンバーも少なくない。現状、志楽蝶は一般的な NPO 団体とは違い、仕事や勉強の合間に活動を行う団体であり、仕事や勉強に支障が出ない無理ない程度に行うというスタンスの下で活動しているので、このような結果になっている。

現状の活性化も勿論大事なことを考えている。現在募集している三期生の拡充を行い、志楽蝶 BASE の利用者(メンバー)の分母を増やし、来場率をあげ、より意味ある場所にしていきたい。

今後の方向性・意見(自団体の活動あるいは若ツナ全体の活動について)

各団体が抱えている課題について議論し、解決に少しでも近づけるような話し合いの場を作る。情報交換をすることにより、問題を解決へと導き、相乗効果が狙えるのではないかな。

収支結果報告

(金額単位:千円)

収入の部

マツダ財団支援金	500
イベント謝金	83
会費	852
合計	1,435

支出の部

支出についてはマツダ財団負担金からの充当額を右端に記載ください。

	費用項目	内訳	金額	負担金充当
行事・催事費用	講師謝礼 (含交通費)			
	アルバイト代 (含交通費)			
	印刷・設営費 (ポスター、チラシ、看板等)	・各種リーフレット・名刺・ネームカード	32	32
	レンタル・リース料 (会場、備品、バス等)			
	その他	(1)ヒーローショー備品 (1)ヒーローショー運営費 (2)グッズ(非営利)制作費	72	72
	小計		104	104
備品費		(3) 撮 影 機 材 費 (4) 事 務 所 備 品 費 (3)データ維持費 (4)事務所資材費	152 123 20 120	136 120 20 120
出版費用 (会議費、通信費等)				
その他経費		(4)BASE 運営費	852	0
合計			1,371	500

内容欄に活動項目の番号を振って関連づけてください。